

エジプトのコインと経済

ダルウイツシユ・ホサム

●はじめに

コインや紙幣は、私たちの日常生活と密着していて、多くの人がほぼ毎日触れているものだろう。

日常生活のなかで、たとえば一〇〇円玉を手にとってまじまじと観察することはあまりないが、誰もが他の国を訪れ、その国の紙幣やコインを手にしたとき、そのデザインに見入った経験があるのではないだろうか。

世界のコインには、金、銀、銅、青銅、アルミニウムなど様々な材質があり、私たちはそこに記された絵、日付、数字、発行場所、大きさ、金属の種類などから、その国の歴史やその国を統治してきた人物などについて知ることが出来る。また、その国の統治制度がどのように発展してきたか（例えば王国から帝国、そして共和国へ）を垣間見ることが出来る。

コインや紙幣は、その国が成し遂げてきた偉業、重要な建造物や記念日、そして多大な影響力を誇った人物なども教えてくれるのだ。

一・エジプトポンドの成り立ち

エジプトで通貨としてポンドが導入されたのは、一八三四年のことである。それまでエジプトでは、オスマン帝国内にあった際に導入されたトルコのクルシユ(Kurus)をもとにしたピアストルを通貨として使用していた。一八三四年にエジプトポンドが導入されて以降も、ピアストルは一ポンドの一〇〇分の一の値で流通し続けた。その後、一八八五年から一九一四年まで、エジプトポンドは非公式ながら金に対して固定され、一九六二年までは公式にイギリスポンドに対する固定相場と

なった。一九六二年以降はアメリカドルに対する固定相場に変わり、一九八九年からは変動相場制になっている。

エジプトポンドは、アラビア語ではジネー・マスリといい、エジプト方言ではギネー・ミスリという。エジプトポンドの補助単位はピアストルまたはキルシであり、一〇〇ピアストルが一ポンドに値する。ギネーというのはアラビア語ではなく、一六六三年から一八一四年の間にイングランド王国、後にグレートブリテン王国、そしてイギリスで鑄造されたギネーコインに由来する。

エジプトは、一九五二年の革命で君主国から共和国へと移行するまでは、通貨をインドとイギリスで鑄造していた。この革命後、エジプトは鑄造費用を抑え、国内の通貨流通の需要に見合うように、

国内で通貨を鑄造するようになった。

二・通貨のデザインから見るエジプト

エジプトの通貨は、多くの国と同じように十進法である。紙幣には、二〇〇、一〇〇、五〇、二〇、一〇、五、一ポンド札があり、コインは五、一〇、二〇、二五ピアストルコインが公式に流通している。エジプト政府は、小額紙幣をコインに置き換え、五、一〇、二〇、二五ピアストルコインの鑄造を中止するとし、二〇〇五年には五〇ピアストルコインと一ポンドコインが発行され、翌年から流通するようになった。一ポンド紙幣は今後廃止される予定である。

コインの利点は、紙幣よりも長持ちし、古くなりやすく、偽造されにくいという点である。紙幣を洗うことは難しいが、コインは洗ってきれいにする事ができる。筆者が二〇〇五年に初めてエジプトを訪問した際、エジプトのぼろぼろになった小額紙幣の汚さに驚いたものである。一ポンド紙幣や額面の小さな紙幣は、特に職人や経済的に貧しい層で頻繁に使われ、多く流通している。肉屋や食料品

を扱う人々の使う小額紙幣を調べたところ、高い割合で紙幣に細菌が付着していることが判明したという報告がある(参考文献①)。このため、小額の紙幣をコインと置き換えることで、病気の流行を予防することができると期待されている。

エジプトの通貨で、多くの人々の興味を引くのが、その多彩なデザインであろう。エジプトの紙幣やコインには、有名な歴史的建造物、モスク、歴代ファラオなどがデザインされており、土産として持ち帰る人も多い。例えば、新しく流通した五〇ピアストルコインには、クレオパトラの横顔が、一ポンドコインにはツタンカーメン王のマスクがデザインされている。二人ともエジプトを代表する歴史上の人物として有名だ。紙面の関係上すべてのコインをここに掲載することはできないので、エジプト中央銀行のウェブサイトをぜひ参照していただきたい (<http://www.cbe.org.eg/English>)。

五ピアストルには製造年によりいくつかデザインがあるが、代表的なのはエジプトの観光名所のひとつであるギザの三大ピラミッドがデザインされた銅色のコインで

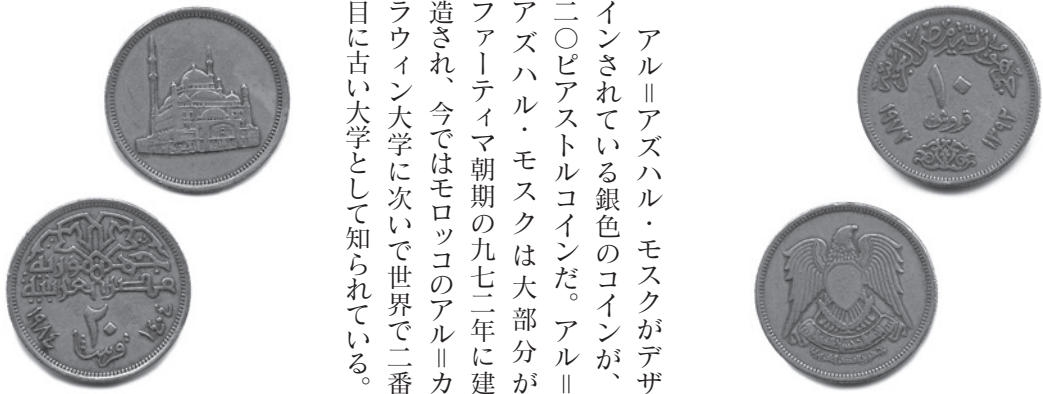
ある。一番大きいのがクフ王のピラミッド、中央に位置するのがスフィンクスに護られたカフラー王のピラミッド、そして小さいのがメンカウラー王のピラミッドである。写真は、別のデザインの五ピアストルコインで、イスラーム的な模様が刻まれた壺が描かれている。



筆者撮影

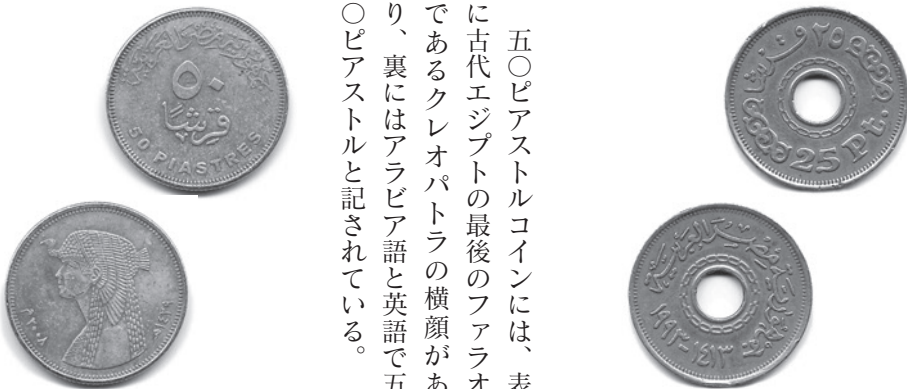
一〇ピアストルコインは、五ピアストルとほぼ同じ大きさであり、色は金色である。一八一六年に亡くなったムハンマド・アリーの子を偲んで建造されたカイロにあるムハンマド・アリー・モスクがデザインされている。写真は、一九七二年に鑄造された別のデザインのコインで、象徴的な統合にとどまり一九七七年に解体したアラブ共和国連邦の国章の鷹がデザインされている。

アルIIアズハル・モスクがデザインされている銀色のコインが、二〇ピアストルコインだ。アルIIアズハル・モスクは大部分がファアティマ朝期の九七二年に建造され、今ではモロッコのアルIIカラウイン大学に次いで世界で二番目に古い大学として知られている。



と、穴のないものがある。イスラーム的な唐草模様似たデザインが施されている。

五〇ピアストルコインには、表に古代エジプトの最後のファラオであるクレオパトラの横顔があり、裏にはアラビア語と英語で五〇ピアストルと記されている。



二五ピアストルコインにもデザインが複数あり、日本の五円玉のように真ん中に穴のあいたもの

一ポンドコインは、二種類の金属から成る。外側は銀色、内側は金色で、一九二二年にツタンカー

メン王の墓から発掘された黄金のマスクのデザインが施されている。



三. コインからみるエジプト

経済

現在エジプトで使用されているコインは、五〇ピアストルと一ポンドコインがほとんどだ。この二つの新しいコインが製造されたのはいくつか理由があるが、紙幣に比べて鑄造の費用がかからないことと、紙幣よりも長持ちすること、紙幣より大きな理由である。新しいコインを作ることで、汚れた小額紙幣と置き換えることが可能となり、コインのリサイクルも可能となった。エジプト政府は、新しいコインを導入することで、エジプト通貨に対するイメージ向上を狙い、紙幣製造のコストを削減しようとしたのである。以前はピアストルの紙幣も作られていたが、

今では二五ピアストル紙幣、五〇ピアストル紙幣、そして一ポンド紙幣はほとんど使われておらず、逆に使おうとすると受け取ってもらえないこともしばしばなので、エジプトに行く際には注意が必要だ。

エジプトポンドの価値は日に日に弱くなっており、コインをたくさん持ち歩かなくてはならないという問題が起こっている。多くの商店では、その日店じまいすると、膨大な量のコインを数えなくてはならないという事態に陥っている。その数があまりに多いため、金額を正確に数えるのではなく、コインを重さで計算するという人も少なくないのだ。例えば、一キロの一エジプトポンドコインを集めると、およそ四一ポンドになる。また、五〇ピアストルコインの一キロ分は三〇ポンドに相当する (Ahram、二〇一〇年七月三一日)。エジプトポンドの価値がさらに下がれば、より多くのコインが必要となり、店主たちは頭を抱えることになるだろう。

二〇一一年の「アラブの春」の革命前、エジプトの通貨は、比較的大きな外貨準備高によって支えられていた。二〇一一年初めに

は、エジプトの外貨準備高は、三六〇億米ドルに達していた。二〇一一年の一月二五日革命後の政治的混乱、資本の流出、経済成長率の低迷により、エジプトの外貨準備高は一五〇億米ドルへと二年のうち激減した (Egypt Independent、二〇一三年一月一日)。ホスニー・ムバラク政権の崩壊以降、海外からの投資と観光収入が激減し、外貨準備高は六〇%も落ち込み、経済成長率も三%低下し、エジプトポンドの急激な切り下げが起こっている。これら全てが、食糧価格の高騰、失業率の高まり、燃料と調理用ガスの不足という事態につながり、エジプト人エコノミストのガラル・アミン曰く、エジプトは一九三〇年代以降、最悪の危機的状況に陥っている (Ahram、二〇一三年五月一七日)。

エジプトは、食糧や燃料を含む多くの必需品を輸入に頼っている。エジプト経済は、小麦や燃料に対する補助金を減らすなどの改革を実行すれば、現在の混乱と政治不安がさらに悪化するかもしれないというジレンマに直面している。他方で、何も対策をとらなければ、経済状況は悪化の一途をた

どり、人々はより大きな困難に直面することになる。そうすれば混乱と政情不安は悪くなる一方で、エジプトの移行期政治プロセスを脅かすことになる。言い換えれば、エジプト政府は、政党間で合意を形成し、安定を約束することができない限り、勝ち目のない状況に置かれているのである。

(二〇一三年五月二九日脱稿)

(Darwish Housam / アジア経済研究所 中東研究グループ)

《参考文献》

- ①A.F. Sahab, Bahya Dissoki, Sohier Sahaba, Seham Badie, and Olfat Hanafy 2012. "Studies on Fungal Contamination of Current Egyptian Paper Banknotes" *International Journal of Microbiological Research* 3 (1): 75-81.